

第7回JLAシミュレーション審査会 参加者募集要項

シミュレーション 2022

実施通知

2022年9月12日
救助救命本部
パトロールレスキュー委員会

- 名称
■目的
- 第7回JLAシミュレーション審査会
- ① 溺者・傷病者に対する救助救護技術の向上と、関係法令に遵守し、専門分野の有識者指導の下、ライフセーバー間の技術共有を目的とします。
 - ② 医療機関まで『命をリレーする一員』として、ライフセーバーと公的救助機関との連携能力向上を目的とします。
 - ③ 日本各地の活動環境にあわせたシミュレーションを実施することで、実施者、審査員ともに様々な想定を学び成長できる機会とするとともに、各地のライフセーバーと公的救助機関との連携促進を目指します。
- 日程場所
- | | |
|-----------------|------------------------------|
| ■九州沖縄・四国ブロック | 2022/10/29 (土) 開催地は調整中 |
| ■東海ブロック | 2022/11/05 (土) 静岡県下田市吉佐美大浜海岸 |
| ■北海道・東北・北信越ブロック | 2022/11/12 (土) 新潟県柏崎市東の輪海水浴場 |
| ■北関東・南関東ブロック | 2022/11/20 (日) 神奈川県開催地は調整中 |
| ■近畿・中国・北信越ブロック | 2022/11/26 (土) 開催地は調整中 |
- ※出場チーム数によって変更する可能性があります。
- 主催
■後援
- 公益財団法人日本ライフセービング協会
消防庁、海上保安庁
新潟県、福井県、宮崎県、静岡県、神奈川県
柏崎市、高浜町、宮崎市、下田市、横浜市【各予定】
- 助成
■協賛
■協力
- 公益財団法人日本財団
2022/8/28 現在公募中
調整中
- 審査項目
- ① 継続監視要領
 - ② ライフセーバー間の連携要領
 - ③ 傷病者への観察要領
 - ④ 救急隊への引き継ぎ要領
 - ⑤ 観衆への対応要領
 - ⑥ 監視長の指揮要領
 - ⑦ 資器材の適正な取扱い要領
 - ⑧ 環境に配慮した対応要領（感染対策含む）
 - ⑨ 接遇要領
 - ⑩ 関係者の対応要領
- 想定
- 想定の概略
- ① 審査長の「想定はじめ」の合図から審査開始とします。
 - ② 原則6名態勢で通常の監視業務中に有事が起きたこととします。
 - ③ 他にも遊泳客は存在し、海のコンディションは良好です。
 - ④ 遊泳禁止等の判断は海浜組合・役場の3者と協議し決定しているため容易に変更できない状況です。
 - ⑤ 実施者により仮想119通報があり、救急隊要請された場合、後に救急隊が到着します。
 - ⑥ 総括の指示で係員が計測を行い、総括の「想定終わり」の合図によって審査終了とします。
 - ⑦ 想定に別途変更などあった場合、当日事前説明時に変更点や付加事項などを実施者にお知らせします。

実施時間

9分間（実施チーム数によって変更します）

実施人数

原則6名 内訳(監視長1名 監視員5名)

使用資器材（地域によって変更の可能性あり）

- ① レスキューボード、レスキューチューブ×2、双眼鏡、パイプ椅子×3、拡声器、AED（訓練用AED、訓練用パット×2）、バックボード、傷病者記録票（バインダー含む）、ディスプレイグローブ×100、トランシーバー×4基（仮想消防含む）、はさみ、滅菌精製水の入ったボトル、お湯の入ったボトル、氷のう×1、毛布、アルコールなど（事前に手に取って確認することができます）
- ② その他、普段監視業務などで使用している資器材の持ち込みを可能とします。
- ③ 傷病者に着用させる感染対策は各チームでご用意ください。

■表彰 審査結果により優秀チームを表彰します。

■審査員の構成等

- ① 審査員は主催団体本部から5名と地域クラブから8名、JLAスーパーバイザー、JLAメディカルダイレクター、外部審査員として消防庁様（若しくは消防関係者様）、海上保安庁様の原則約20名の構成とします。（地域によって変更あります）
- ② 地域クラブ代表の審査員は原則次年度連続して従事しない者としてします。
- ③ 次年度の地域クラブ代表の審査員は、原則前年度地域クラブ代表の審査員により推薦され、救助救命副本部長により承認します。
- ④ 救助救命副本部長は原則毎年、審査長として、救助救命副本部長は原則毎年、審査員として従事します。
- ⑤ アカデミー副本部長、副本部長、委員長のうち1名が審査員として従事します。
- ⑥ スポーツ副本部長、副本部長、委員長のうち1名が審査員として従事します。
- ⑦ 教育副本部長、副本部長、委員長のうち1名が審査員として従事します。
- ⑧ 各審査員等に欠員が出た場合、救助救命副本部長の推薦により、救助救命副本部長が承認することが可能とします。
- ⑨ 地域クラブ代表選出の審査員は、長年クラブ運営に携わり、多くのライフセーバー育成に貢献し、監視業務の連携活動に高度な審査が出来る者としてします。また、公的救助機関との連携活動を審査出来る者を推薦・承認することとします。
- ⑩ 新規に開催される開催地の審査員の選抜は、当該都道府県協会の推薦した地域クラブが、上記⑨に該当する人物を選出（人数は各要相談）し、救助救命副本部長が承認します。
- ⑪ JLA各都道府県協会は、視察を兼ねて代表者1名を派遣していただき、審査会オブザーバーとして参加願います。

■エキストラの募集

受付先：JLA事務局メール受付にてエキストラの公募を行います。

皆様のご協力よろしくお願致します。 Patrol@jla.gr.jp 担当 中山

■審査員の発表

各実施日前迄にライフセーバーズなどで実施細部として別途お知らせします。

■実施細部の発表

ライフセーバーズで別途お知らせします。

■審査員及びエキストラへの事前説明会

各実施日当日朝に行う予定です。

事前説明会実施場所や時間は別途該当者へ連絡します。

■審査結果及び検討推奨事項発表

2023年2月3日（金）迄に協会HPにて発表します。

検討推奨事項を次年度のパトロールの連携技能や審査会に活かしてください。

■参加費

1チーム3,000円

■参加チーム数

各日程、最大15チームとし、申込順で締め切りとします。

■お申込み方法

1. 参加者募集要項の全ての書類を良く読み、参加規定を承諾した上でお申し込みください。
2. 参加者申し込みされた方は同時に同意書を承諾したものとみなします。
3. どの開催地にも参加できますが、年度内エントリーは全日程合計で1回までの参加にご協力ください。
4. **申し込み開始は、2022年9月16日（金）からです。**
5. **申し込み締切は、最大15チームに満たない場合でも下記の通り実施会場ごとに締め切り日を設けます。**

2022/10/29 (土) 九州沖縄・四国ブロック開催地は調整中
2022/11/05 (土) 静岡県下田市吉佐美大浜海岸
2022/11/12 (土) 新潟県柏崎市東の輪海水浴場
2022/11/20 (日) 神奈川県開催地は調整中
2022/11/26 (土) 近畿・中国・北信越ブロック開催地は調整中

申込締切 2022/10/21
申込締切 2022/10/28
申込締切 2022/11/04
申込締切 2022/11/11
申込締切 2022/11/18

Webエントリーすべての項目に記入願います

申し込みURL → <https://forms.gle/p5acLhDL7CxJCQJK7>



申し込みQRコード

6. 参加費につきましては**1チーム3,000円**を申込締切日までに下記の口座へお振り込みください。恐れ入りますが振込手数料につきましては振込者側でご負担ください。

金融機関・支店名：三菱UFJ銀行 新橋支店（店番433）
口座種類・番号：普通 5298841
口座名義：公益財団法人日本ライフセービング協会
ザイ）ニホンライフセービングキョウカイ

※振込の際には、「チーム（クラブ）名略称 もしくは 振込者個人名」・「審査会」を必ず付けてください。【入力例】浜松町・審査会

7. 参加規定を満たしていない場合、Web入力の不備、参加費の未納等は参加を受け付けない場合がありますのでご注意ください。また、各都道府県協会会員登録の手続きをされていない方、各都道府県協会会費未納のクラブは、本審査会に出場できませんので、予めご了承下さい。
8. 全てのWeb申込入力事項はメモを取り、控えをお持ち下さい。
9. Web申込入力事項の個人情報、審査会プログラムに掲載される可能性があります。
10. 参加申込および参加費振込みの締切りは**各日程、最大15チームとし、申込順で締め切りとします**。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

- 参考時系列
- | | |
|----------|------------------------------------|
| 9/13(火) | 都道府県協会に速報連絡 |
| 9/14(水) | 協会HP及びFBで告知 |
| 9/15(木) | ライフセーバーズにて配信 |
| 9/16(金) | 申し込み開始
審査員候補者へ依頼開始
エキストラ募集開始 |
| 12/16(金) | 迄に審査結果発表 |
| 2/3(金) | 迄に検討推奨事項発表 |

～お申し込み・お問い合わせ先～

公益財団法人 日本ライフセービング協会

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-1-18 トップスビル 1F 担当 中山

TEL：03-3459-1445 FAX：03-3459-1446

<https://ls.jla-lifesaving.or.jp/> info@jla.gr.jp

(電話お問い合わせ時間 12:00～18:00)

第7回JLAシミュレーション審査会

参加規定 及び 同意書

1 [参加資格]

実施者の参加資格は下記の3点を共に満たしている者、若しくは本協会が特別に参加を認めた者でなければならない。

- (1) 実施者は、審査会当日満15歳以上でなければならない。但し中学生を除く。
- (2) 実施者は、ライフセービング活動を志し、出場する審査会の過去2年以内に海岸やプール等水辺での監視・救助活動、協会が認める教育活動に25時間以上従事した者でなければならない。
- (3) 実施者は、締め切り日までに、本協会の第1種から第6種の団体に登録していなければならない。
- (4) 実施者は、ベーシック以上の資格を所有していなければならない。実施者が高校生の場合は、BLSおよびWS以上の資格を所有していなければならない。

2 [チームの参加資格]

- (1) チームは、締め切り日までに、本協会の第1種から第6種の団体登録が完了していなければならない。また、1団体からの出場は原則1チームまでとする(千葉県での開催時は千葉県内のチームであれば、所属浜毎の出場を認めます。ただし、1日最大実施チーム数15を超えた場合は出場制限をかけます。)。ただし参加チーム数が多くなり、運営に影響があると判断された場合は出場数に制限をかける可能性があります。
- (2) チームは、同じクラブに所属する実施者により構成されていなければならない。

3 [出場登録]

実施者は、あらかじめ申し込み手順に沿ったWebエントリーをしなければならない。なお、エントリー後の参加者の変更は、パトロールレスキュー委員会に届け出て、認められなければならない。

4 [チーム代表者]

各参加チームはチームを代表する者としてチーム代表者を1名おかななければならない。なお、チーム代表者と実施者はこれを兼任することができる。

5 [服装]

- (1) 各チームは、普段監視業務で使用するユニフォームを着用すること。JLA公式ユニフォームを使用しているチームは、原則として当年度に配布されたユニフォームを着用する事。
- (2) ユニフォーム、水着、キャップの性質、デザインが一般常識に反すると主催団体が判断した場合は、いかなる実施者も審査会に参加することができない。
- (3) チームのユニフォーム、水着、キャップ、ラッシュガードに審査会のスポンサーと対立するような商標、商標名があると主催団体が判断した場合、その対応は主催団体の指示に従わなければならない。
- (4) 審査会主催者が指定する衣類(ラッシュゼッケン)を審査会中に着用していただくことがある。
- (5) 新型コロナウイルス感染予防策として、2022年5月10日JLAMメディカルダイレクター、JLA救助救命本部、JLAアカデミー本部通知(新型コロナウイルス感染症に対するライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン 2022)をよく確認して頂き、サージカルマスク、ディスポーザブル手袋、目の保護具(サングラス、ゴーグル等)の着用を基本とし、活動内容に応じて適切な感染予防を行ってください。

6 [参加費]

- (1) 参加費は、1チーム3,000円とする。
- (2) 参加費は、参加申し込みの締め切り日までに支払わなければならない。
- (3) 参加申し込み締め切り後の参加登録の取り消し、天候その他の理由により、やむを得ず中止になった場合でも参加費は返還されない。
- (4) 実施者が欠場、あるいは失格となった場合でも参加費は返還されない。

7 [使用器材]

- (1) 審査会に使用する器材は想定に示された物を審査会主催者が用意するが、その他、普段監視業務で使用している資器材の持ち込みを可能とします。ただし持ち込み器材が審査会中に破損した場合でも、審査会主催者は責任を取りかねます。
- (2) 主催団体は、実施者の器材の検査・再検査を審査前、審査中、審査終了後任意に行うことができる。器材に著しい事前工作など、普段の監視業務での使用状態としてあり得ない場合は、実施者はその器材を使用できないか、または失格となる。
- (3) 審査会主催者が指定する表示物を器材等に貼用していただくことがある。
- (4) 傷病者に着用させる感染対策は各チームで用意すること。

8 [実施規則]

審査会実施人数は1チーム原則6名とします。九州沖縄・四国ブロック、近畿・中国・北信越ブロック、北海道東北ブロックにあっては、審査会実施人数は1チーム4名若しくは5名の構成でも可能とします。

9 [その他]

- (1) 審査会中に審査会主催者および審査会主催者が認めた者が撮影した写真、映像をライフセービングの広報の目的で使用することがあります。
- (2) 審査会中に審査会主催者が撮影を制限したり、拒否したりすることがあります。
- (3) 審査会主催者への登録事項に虚偽が認められた場合、審査会への参加や記録が取り消されることがあります。

2022年度 想定予定 当日に状況により内容が変更される場合があります。

時間	項目
0分	監視員（以下LS）詰所テント（以下監視台）に実施チームは待機 固定監視 監視長の「準備よし」の呼称があったら 統括の『想定はじめ』の合図で計測開始
想定開始後 0秒後スタート 本部前波打ち 際から	監視本部目の前の波打ち際から、傷病者A（年齢実年齢、学生、川島博(かわしまひろし)若しくは弘子(ひろこ)）が、遊泳中に右下腿（右ふくらばぎ）に急激な痛みを感じ、更に、痛みにより興奮したところ鼻出血が止まらなくなったもの。自力歩行可能な状態で、監視本部まで歩いてきた。時間経過とともに右下腿の痛みが増してきたと訴える。 想定のおねらい：右下腿には触手が残存していないことから、どのクラゲ（刺胞動物）に刺されたのか不明。適切な声掛けや説明対応ができるか、傷病者が安心できる対応であったか。また、同時に鼻出血が止まらない状態であるため、適切な対応ができたか、声がけを含め安心感を与えるような対応であったか。受傷部位をよく観察し、何が何でも海水をかけるなどの行為がなかったか。更には、監視本部に自力歩行できた傷病者に対しての感染防止対策は十分行えるか。
想定開始後 45秒後スタート 浜から駆け寄 ってくる	監視本部前の波打ち際から通報者が駆け寄ってくる。監視本部から150m程度離れた浜で人が倒れていると通報を受ける。 通報者は、海の家（エイジア）の従業員（年齢実年齢、バイト、塚田陽介(つかだようすけ)若しくは冴子(さえこ)。人だかりを確認すると、中心で倒れている一人が過度な飲酒により、激しくおう吐を繰り返した後、現在は呼吸をしていないように感じたので危険と判断し、監視本部に來たが、いつから倒れていたか、前後の状況は全く分かっていない。 傷病者（年齢実年齢、派遣社員、関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ)。側臥位。周囲に飲酒したであろう酒類が落ちている。 周囲にいた傷病者の同僚も酩酊状態で大騒ぎしている。泣き叫ぶなど活動の弊害且つ常識的範囲で負荷想定がある。誰のせいだと喧嘩を始める者もいる。3回ほど制圧するような指導すると、概ね言うことを聞く。6人程度。 傷病者バイタル： LS接触時、初見CPAと判断、意識レベル300)、左記状況以外は見たまま、外傷無し。(皮膚が赤い等はムラージュで表現負荷想定は傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する可能性あり。)訓練用AEDした場合は、解析するもショックの要なし。レベル30、呼吸なし、橈骨動脈触れない。総頸動脈触れる。急性アルコール中毒。観衆による活動障害。LS接触後90秒後に深い酩酊なるも意識回復、大量の海水含む胃内容物(食べ物含む)逆流あり、その後ふらつきつつも、自力で立ち上がり「ありがとう…ありがとう…もう大丈夫だから」と言って、唾を吐きながらその場を立ち去ろうとする。かなり激しい酩酊状態継続と、直前まで意識混濁状態であったこと、大量の海水を飲んでしまっている。しかし、「大丈夫、大丈夫…」とふらふら歩いてしまう状態。(監視本部方向へ)人定は傷病者本人に問いかけるも「ありがとう…ありがとう…もう大丈夫だから」としか回答しない。 関係者友人Bは、LSが傷病者に接触した時に現れる。酒に酔っている。更には慌てており、LS接触後30秒間は傷病者に『大丈夫？どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、救急車呼んだのであれば荷物を取りに300m離れた海の家まで行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到着1分後まで戻ってこなくなる。 海の家に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（年齢実年齢、派遣社員、関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ))、電話番号は携帯をいじってしばらくしてから回答090-7000-5762、住所は回答できない品川区とだけ回答。 関係者(友人)からの情報は、一緒に飲んでいたが、傷病者は深酒のため寝たものだと思込み、おう吐していることに気づかなかった。気付いた時には呼びかけに反応がなく顔色が悪い状態だった。20分前の出来事。関係者(友人)は救急車に同乗可能。 想定のおねらい：急性アルコール中毒。観察や関係者から聴取した情報を理解し適切な処置ができるか。 想定の流れと説明：救急要請を実施しつつ、先の海生物刺傷及び鼻出血の傷病者に対して活動優先順位を救急隊に相談報告し判断できるか。時間経過とともに容態変化の可能性も予測し、継続的な呼びかけや容態観察バイタルの変化など記録し救急隊に引き継げるか。 更には、傷病者に対しての感染防止対策は十分行えるか。セカンド・サードとの感染対策の連携は十分であったか。継続監視は十分できているか【重要】。 119番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。
想定開始 4分30秒後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）
想定開始 7分後	救急隊長指示で、搬送開始 それまでは救急隊は観察継続
想定開始 9分後	車内収容完了 監視業務継続 統括の『想定終了』の合図で計測終了

想定及びJLA側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。

2021年度 想定

時間	項目
0分	監視員（以下LS）詰所テント（以下監視台）に実施チームは待機 固定監視 監視長の「準備よし」の呼称があったら 統括の『想定はじめ』の合図で計測開始
想定開始後 0秒後スタート 本部前波打ち 際から	監視本部目の前の波打ち際から、傷病者A（年齢実年齢、会社員、廣川健太（ひろかわけんた）若しくは良子（よしこ））が、ボディサーフィン中に前転してしまい、おでこ（前頭部）を海底（固く締まった砂）に強打し、頸部に鈍い音を感じた直後から両肩から先に刺すような痛みを感じ、両上肢が激しい痛みと共に動かなくなったと訴えつつ自力歩行可能な状態で、監視本部まで歩いてきた。 時間経過とともに痛みが増してきたと訴える。 想定のおねらい：受傷部位頸椎損傷。観察や傷病者から聴取した情報を理解し適切な処置ができるか 想定の流れと説明：救急要請を実施しつつ、頸部に動揺を与えないよう適切な固定を実施できるか。また、時間経過とともに容態変化の可能性も予測し、継続的な呼びかけや容態観察バイタルの変化など記録し救急隊に引き継げるか。 更には、監視本部に自力歩行できた傷病者に対しての感染防止対策は十分行えるか。
想定開始後 45秒後スタート 浜から駆け寄 ってくる	監視本部前の波打ち際から通報者が駆け寄ってくる。監視本部から150m程度離れた浜に常設のトイレ前の砂浜で人が倒れていると通報を受ける。 通報者は、近隣民宿（はまゆう荘）の従業員（年齢実年齢、バイト、江連洋二（えづれようじ）若しくは里穂（りほ））。常設のトイレ前の人だかりを確認すると、集団で飲酒を行い、そのうちの一人が過度な飲酒により、激しくおう吐を繰り返し意識混濁のため危険と判断し、監視本部に来たが、いつから倒れていたか、前後の状況は全く分かっていない。 傷病者（年齢実年齢、アパレル従業員、鈴木学（まなぶ）若しくは咲（さき））。側臥位。周囲に飲酒したであろう酒類が落ちている。 周囲にいた傷病者の同僚も酩酊状態で大騒ぎしている。泣き叫ぶなど活動の弊害且つ常識的範囲で負荷想定がある。誰のせいだと喧嘩を始める者もいる。概ね6人程度。 傷病者バイタル： LS接触後1分で連続3回 胃内容物逆流 飯類大量に準備、その後に、意識レベル300）、上記状況以外は見たまま、外傷無し。（皮膚が赤い等はムラージュで表現負荷想定は傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する。） 訓練用AEDした場合は、解析するもショックの要なし。レベル300、呼吸あり、脈総頸触れる。急性アルコール中毒。観衆による活動障害。 関係者友人Bは、LSが常設のトイレ前に来た時に現れる。酒に酔っている。更には慌てており、LS接触後30秒間は傷病者に『大丈夫？どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、荷物を取りに権兵衛という民宿まで行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到1分後まで戻ってこなくなる。 民宿に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（年齢実年齢、アパレル従業員、鈴木学（まなぶ）若しくは咲（さき））、電話番号は携帯をいじってしばらくしてから回答090-7000-5762、住所は回答できない品川区とだけ回答。 関係者（友人）からの情報は、一緒に飲んでいたが、傷病者は深酒のため寝たものだと思い込み、おう吐していることに気づかなかった。気付いた時には呼びかけに反応がなく顔色が悪い状態だった。20分前の出来事。関係者（友人）は救急車に同乗可能。 想定のおねらい：急性アルコール中毒。観察や関係者から聴取した情報を理解し適切な処置ができるか。 想定の流れと説明：救急要請を実施しつつ、先の頸椎損傷の傷病者に対して活動優先順位を救急隊に相談報告し判断できるか。時間経過とともに容態変化の可能性も予測し、継続的な呼びかけや容態観察バイタルの変化など記録し救急隊に引き継げるか。 更には、傷病者に対しての感染防止対策は十分行えるか。セカンド・サードとの感染対策の連携は十分であったか。継続監視は十分できているか【重要】。 119番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。
想定開始 4分30秒後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）
想定開始 7分後	救急隊長指示で、搬送開始 それまでは救急隊は観察継続
想定開始 9分後	車内収容完了 監視業務継続 統括の『想定終了』の合図で計測終了

想定及びJLA側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。

過去に実施された想定 1

各チームの事前トレーニングのために予め想定を公表しますが、一部をブラインドとします。ブラインド部分について各チーム想定し、技能及び連携能力向上に活かしてください。

時間	項目
0分	監視員（以下LS）詰所テント（以下監視台）に実施チームは待機 固定監視 監視長の「準備よし」の呼称があったら 統括の『想定はじめ』の合図で計測開始
想定開始後 0秒後スタート 本部前波打ち際から	監視本部目の前の波打ち際から、関係者友人A（年齢実年齢、会社員、関康人（やすと）若しくは康子（やすこ））に肩を貸してもらいながら、びっこを引き、『何かに足の甲を挟（はさ）まれた』『痛い…』と訴え、監視本部内に侵入してくる。傷病者（年齢実年齢、自営業、小林典夫（のりお）若しくは典子（のりこ））。水深30cm位の波打ち際で激痛を覚える。時間経過とともに痛みが増し、座ってもいられなくなる。 想定のおねらい：受傷原因はアカエイ刺傷によるアナフィラキシーショックを理解し適切な処置ができるか 想定の流れと説明：アカエイ刺傷では、たんぱく質毒のため40℃程度のお湯に浸さない限り痛みが治まらない。 傷病者本人は何が起きたのかアカエイ自体を視認していないので原因がわかっていない。 受傷部位が足の足底で痛みが増してくる。刺入部には発赤をともなう傷がある。 毒針による穿通時は挟まれたような感覚もある。 湯に浸けて痛みを軽減する処置ができるか判断が必要である。 バイタル：意識清明、その他実測通り、容態変化は温める行為が監視本部着3分以内に無いとのたうち回るほど痛みが増す。
想定開始後 45秒後スタート 海の家から駆け寄ってくる	海の家から駆け寄ってくる監視本部から150m程度離れた海の家（菊水）内のシャワー室で人が倒れていると通報を受ける。 通報者は、海の家（菊水）の従業員（年齢実年齢、バイト、佐伯修司（さえきしゅうじ）若しくは修子（なおこ））。シャワー室で倒れているのを発見し、監視本部に来たが、いつから倒れていたか、前後の状況は全く分かっていない。 傷病者（年齢実年齢、アパレル経営役員、永山満（みつる）若しくは満江（みつえ））。海の家 菊水内シャワー室。側臥位 傷病者バイタル：（生体中川委員） LS接触後1分で連続3回 胃内容物逆流 飯類大量に準備、その後に、意識レベル300）死戦期呼吸に移行（LS接触後2分間、補助呼吸実施していたら3分以降は呼吸なし）、上記状況以外は見たまま、外傷無し。（皮膚が赤い等はムラージュで表現 負荷想定は傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する。） 訓練用AEDにより、解析開始、ショック その後レベル300、呼吸無し、脈総頸触れず、外傷無し 関係者友人Bは、LSが海の家に来た時に現れる。慌てており、LS接触後30秒間は傷病者に『大丈夫？ どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、荷物を取りに駐車場行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到1分後まで戻ってこなくなる。 駐車場に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。傷病者の名前（年齢実年齢、アパレル経営役員、永山満（みつる）若しくは満江（みつえ））、電話番号は携帯をいじってしばらくしてから回答090-7000-5762、住所は回答できない品川区とだけ回答。 関係者（友人）からの情報は、浜辺で遊んでいたが、傷病者は気分が悪い、足がつったと一人で海の家に戻ったところまで知っている。20分前の出来事。 関係者（友人）は救急車に同乗可能（駐車場自家用車はどうすれば…） 119番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。
想定開始5分後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）
想定開始7分後	救急隊長指示で、搬送開始 それまでは救急隊は観察継続
想定開始9分後	車内収容完了 監視業務継続 統括の『想定終了』の合図で計測終了

想定及びJLA側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。

過去に実施された想定 2

各チームの事前トレーニングのために予め想定を公表しますが、一部をブラインドとします。ブラインド部分について各チーム想定し、技能及び連携能力向上に活かしてください。

時間	項目
0分	監視員（以下LS）詰所テント（以下監視台）に実施チームは待機 固定監視 監視長の「準備よし」の呼称があったら 統括の『想定はじめ』の合図で計測開始
想定開始後 0秒後スタート 本部前波打ち際から	監視本部目の前の波打ち際から、傷病者（年齢実年齢、自営業、小野典夫（のりお）若しくは典子（のりこ））。浜で硬球を使ってキャッチボールをしていたところ、右上肢中指と薬指の間に硬球が直撃し、同手掌部位が4cm裂創したもの。友人など付き付き添いは無し。自力歩行で監視本部に来るも、激しい痛みと出血が著しい状態で苦悶の表情。 ブラインド想定：氏名などの人定以外はなし。所持品などは海の家にある。付き添いは来ない。
想定開始後 45秒後スタート 海の家から駆け寄ってくる	想定2のねらい 水上バイク陸上搬送中に固定具がはずれて右下腿に落下する想定 出血性ショックと神経原性ショックを鑑別できる。 想定のがれ 監視本部から150m程度離れた海の家（一品香（いっぴんこう））裏の高台から人が落ちて、骨折したようだ通報を受ける。 通報者にあつては、海の家（一品香）の従業員（年齢実年齢、バイト、雲藤修司（うんどうしゅうじ）若しくは修子（なおこ））。海の家裏で人が集まり騒いでいたことから傷病者がいることを認知した。監視本部に来たが、いつから倒れていたか、前後の状況は全く分かっていない。 傷病者（年齢実年齢、会社役員、日高 満（みつる）若しくは満江（みつえ））。海の家一品香裏のスロープから水上バイクを陸揚げしていたところ、水上バイクが台車から脱落し、右下腿が下敷きになり、右下腿が変形損傷しているもの。この時日高満は水上バイクを後ろから押していた。 主訴：右下腿の変形と痛み、後頭部を打撲、頭皮から微出血擦過傷軽度の痛み、右下腿の痛みがひどく自力歩行困難。側臥位。足の上に載っていた水上バイクは関係者が移動して現場には無くなっていった。 傷病者バイタル：（生体中川委員、意識レベル清明だが激しい痛みのため質問にほぼ答ええない。水上バイクの脱落事故とだけ話すことができる。 観察所見：顔面蒼白、橈骨動脈蝕知せず、徐脈をともない、四肢末梢の皮膚は冷たく、冷汗、呼吸は浅くはやい・回数実測、脈は徐脈とするが実測。 上記状況以外は見たまま。（負荷想定は傷病者の胸部に付加想定項目を表記する。 処置：下腿の固定（身の回りの機材で）とショック体位、ABCの繰り返しの確認、保温 救急隊への引継ぎが適正に行う 関係者友人Aは、LSが海の家に来た時に現れる。慌てており、LS接触後30秒間は傷病者に『どこが痛い？首痛くないか？大丈夫だから！』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、荷物を取りに駐車場行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到1分後まで戻ってこなくなる。 駐車場に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（年齢実年齢、アパレル経営役員、日高満（みつる）若しくは満江（みつえ））、電話番号は携帯をいじってしばらくしてから回答090-7000-5762、住所は回答できない鎌倉市材木座とだけ回答。 関係者（友人）からの情報は、海の家（一品香）裏のスロープから水上バイクをバギーでけん引し陸揚げしていたところ、水上バイクが台車から脱落し、慌てて後ろを見に行ったら日高満の右下腿が下敷きになっていたのので、周囲の観衆に手伝ってもらい水上バイクを台車に戻し、日高満を観衆に任せて、水上バイクを駐車場までけん引して戻ったところ。事故は20分前の出来事。 関係者（友人）は救急車に同乗可能（駐車場自家用車はどうすれば…） 119番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。
想定開始5分後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）
想定開始7分後	救急隊長指示で、搬送開始 それまでは救急隊は観察継続
想定開始9分後	車内収容完了 監視業務継続 統括の『想定終了』の合図で計測終了

想定及びJLA側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。